

筑波大学特別支援教育連携推進グループ 令和6年度現職教員研修の実践実習・成果報告会 (指導力向上研修・1か月)

令和6年度現職教員研修（指導力向上研修・1か月）について、倉益晶子先生（鳥取県立皆生養護学校）が1か月の研修を修了されました。11月5日（火）から12月5日（木）の1か月間、茗荷谷の筑波大学東京キャンパスと、附属桐が丘特別支援学校で研修を受けられました。

倉益先生の研究テーマは、「自立活動を主とする教育課程で学ぶ重度重複障害児における教科指導について」で、附属桐が丘特別支援学校での実践実習では、特に障害の重い子供の算数・数学科の授業づくりについて、中学部の生徒を対象に取り組みました。

「障害の重い生徒が数学的な見方・考え方を働かせるような授業」をどのように考えたら良いのか、附属桐が丘特別支援学校の指導教員と熱心に意見交換をしながら、幾度も授業展開を練り直し、教材研究を重ねられました。

研究授業の単元「積み木で遊ぼう」では、知的小学部1段階【A 数量の基礎】の目標・内容に基づき、「積み木を倒す」という活動を通じて、生徒が思考を深めながら学習に取り組む姿をねらい、授業に取り組みました。布で隠された積み木に気付き、関心をもって積み木を倒す活動に取り組めるように、指導の工夫や教材の仕掛けを考えて設定しました。研究授業後の検討会では、数学的な見方・考え方や評価等について活発な協議が行われました。

成果報告会では研修の成果や学びを発表されて、参加者から今後の実践に繋がる助言をいただきました。これからの倉益先生の御活躍を心より願っております。



生徒が視覚や聴覚を協応させて対象物に注意を向けられるようにするために、教材の仕掛けを工夫しました。



授業検討会では、目標・内容の設定、授業展開や指導・教材の工夫について、活発な協議が行われました。



修了式では、1か月の研修で学んだことを振り返り、謝辞と今後の抱負を語られました。



附属学校教育局・特別支援教育連携推進グループ員と記念撮影をしました。